

生田緑地運営の基本的考え方の概要

I 背景・目的

生田緑地は、昭和16年に都市計画決定された都市計画緑地であり、首都圏を代表する緑豊かな自然を有するとともに、個性と魅力ある市民利用施設が集積する本市を代表する貴重な地域資源である。

しかしながら、生田緑地の持つ自然や文化施設の魅力など、生田緑地全体の魅力が十分に発信できていないという現状がある。

そのため、それぞれの個性を最大限発揮させ、生田緑地全体の魅力と利便性の向上を図るとともに、生田緑地の魅力を持続可能とする運営のしくみの構築に向けた「生田緑地運営の基本的な考え方」をまとめ、今後の基本指針とする。

II 生田緑地の現状と課題

1 魅力と利便性

現状：生田緑地は、里山景観の中に枳形山広場やホテルの里、ばら苑など魅力的な自然的資源をもつ緑地である。また、個性ある文化施設やゴルフ場など多様な施設を内包した緑地である。

課題1【魅力向上・情報発信】

- 広報の充実・情報発信の拡充
- 利用者への案内や情報提供の充実

課題2【生田緑地の利便性や回遊性の向上】

- 施設整備・改修の計画的・有機的な連携や調整
- 都市基盤の充実や施設の利便性の向上
- 利用者の回遊性の向上

2 管理運営

施設名	管理運営業務の所管
生田緑地	環境局
岡本太郎美術館、日本民家園、青少年科学館	教育委員会
生田緑地ゴルフ場(駐車場、レストハウス)	環境局(財)川崎市公園緑地協会が管理使用許可により運営)
ばら苑	環境局(財)川崎市公園緑地協会に委託し、ばら苑ボランティアの会との協働により運営)

課題1【多様な連携による管理運営】

- 縦割りの管理運営から多面的なサービス提供
- 多様な担い手との協働

課題2【効率的な予算運営】

- 多面的な運営手法による経費の効率化に配慮した運営

3 北部のまちづくりとの連携

現状：生田緑地周辺では、都市基盤整備が進んでいる一方、生田緑地を地域にぎわいや経済の活性化に活かされていないため、市北部のまちづくり全体の視点から関連施策との連携や整合が必要となっている。

課題1【登戸・向ヶ丘遊園駅周辺との連携】

- 生田緑地を活かした景観や街並みづくり
- 魅力発信や紹介機能の整備
- 商業集積の誘導や既存の商店街などとの連携を通じた賑わいづくり

課題2【交通基盤・施設整備】

- 交通結節点から生田緑地などの地域資源へのアクセス性の向上
- 地域資源への適切な誘導や回遊性を高めるサインの充実

III 生田緑地運営の基本目標

生田緑地の現状と課題を踏まえ、生田緑地の自然や文化的資源の魅力や価値を高めるとともに、運営について従来の枠を超え、利用者の満足度を創出するため、総合的な視点で取り組みを進めるために2つの目標を定める。

■目標1

豊かな自然と多様な資源を活かした価値の創出と魅力の向上

生田緑地のもつ価値を磨き、継承しながら、独自の魅力として向上させるとともに、生田緑地の価値や魅力を積極的に情報発信し、北部のまちづくりとの連携により相乗的な効果として波及する好循環なしくみとして整えていく。

《基本目標の実現に向けた視点》

- ①自然環境の保全・創出・育成と様々な生田緑地施設の機能の充実
- ②生田緑地に立地する文化施設などの魅力の向上
- ③更に魅力を高める新たな機能の導入
- ④戦略的広報の実施
- ⑤北部のまちづくりとの連携

■目標2

効果的・効率的な管理運営の構築による生田緑地の持続的な発展

多様化・増大化が見込まれる市民ニーズに対し、柔軟かつ適切な対応を図るために、従来の枠を超えた総合的な管理運営の構築に向けた取組により、生田緑地の持続的な発展を継続する。

《基本目標の実現に向けた視点》

- ①各施設の特徴を活かした新たな管理運営
- ②横断的な管理運営主体の確立に向けた段階的取組の実施
- ③パークマネジメント※の視点に基づく管理運営

※パークマネジメントの考え方

維持管理、運営管理などの従来の枠を超え、効果的・効率的な管理運営の視点から、豊かな自然環境を持続可能とするとともに、公園のサービス・価値を向上させることをめざして、市民・NPO、企業などと連携・協働しながら、総合的な視点で公園を運営していくこと。

IV 生田緑地運営の主な方策

1 生田緑地の価値と魅力の向上

を図るための施策の推進

(1) 自然環境の保全・創出・育成と様々な生田緑地施設の機能の充実

- ①持続可能な自然環境の形成に向けた取組
 - 生田緑地整備計画を策定し、計画的な緑地の整備
- ②生田緑地施設の整備・充実
 - 利便性・快適性と管理のしやすさの視点から整備・充実(エントランス空間、駐車場、中央広場、周辺散策路など)

(2) 生田緑地に立地する文化施設などの魅力の向上

- ①既存施設の魅力の向上
- ②新たな施設の整備による魅力の向上

(3) 更に魅力を高める新たな機能の導入

- ①青少年科学館の改築に併せた新たな機能の導入
 - 総合インフォメーション機能、ビジターセンター機能、レスト機能等の導入、多摩三浦丘陵拠点連携機能の導入
- ②新たな事業の企画・実施

(4) 戦略的広報の実施

- ①生田緑地全体の価値と魅力を高める情報発信
- ②地域の教育機関や団体等への広報の充実

(5) 北部のまちづくりとの連携の推進

- ①生田緑地と北部のまちづくりの連携方策の推進
 - 生田緑地の魅力を活かした拠点形成
 - 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺への情報発信機能の導入
- ②北部の拠点と生田緑地のネットワークづくり
 - 生田緑地とまちを結ぶ公共交通の導入
 - 歩行者空間とネットワーク整備

2 生田緑地の持続的な発展に向けた

管理運営の構築

(1) 各施設の特徴を活かした新たな管理運営の導入

- ①各施設の横断的な管理運営体制等の確立
- ②施設の魅力を最大限に発揮できる運営体制
- ③民間活力の導入と公・民間の役割分担
- ④生田緑地の施設整備・修繕に関する統一ルールづくり
- ⑤PDCAサイクルによる質の高いサービスの提供

(2) 横断的な管理運営主体の段階的取り組み

- ステップを踏んだ管理運営主体の構築

(3) パークマネジメントの視点に基づく管理運営の導入

- ①ゴルフ場と生田緑地が連携した運営のしくみづくり
 - ゴルフ場の収益の一部を活用した維持管理の拡充
 - ゴルフ場の利便性の向上と経営の安定化
- ②新たな収入源の確保・適正化に向けた取り組み
- ③管理運営費縮減に向けた多面的な取り組み
- ④多様な担い手との協働による管理運営の推進
 - 市民団体、NPOとの連携・協働
 - 大学との連携・協働